

親族名称の他称用法に関する現代中日対照比較 —— “她妈” が「妻」となるときとは？

伊 藤 加奈子

キーワード：親族呼称，人称詞，日中対照，代詞，叙述の基準

A Comparative Study on the Usage of Familial Reference Terms in Modern Chinese and Japanese

Kanako ITO

0 はじめに

自己と親族との関係を示すのに用いる親族語彙を親族名称（人称詞とも）と言い、そしてそれは話し手自身を指すのに用いる「自称詞（terms for self）」と、聞き手を指す「対称詞（address terms）」、そして第三者たる親族を話題に取り入れ指し示す「他称詞、或いは言及語（reference terms）」に弁別される。また親族に対する呼びかけに用いるものは親族呼称と呼ばれるが、中国語では親族呼称が親族名称として用いられることも多い。

中国語と日本語との間に見られる親族呼称の違いでよく知られるものには、たとえば中国語では親族関係の男系・女系で「祖父母・おじおば・いとこ」について語彙が明確な違いを見せること、日本語では目上・目下の概念で親族名称の使用の可否が決定されたり（「お兄ちゃん」は呼びかけ語になるが、「弟ちゃん」はそうはならないなど）、「パパ、父ちゃん、お父さん、お父様」のように親疎関係で語彙のバリエーションを作り出しやすい面が知られる。

夫婦間の呼びかけ表現については、名前を用いた表現を除けば、日本語では自分たちの子供を基準として「お父さん／お母さん」と呼びかけるのが一般的だが、中国語では“小梅她爸（小梅のお父さん）／小梅她妈（小梅のお母さん）”のように“爸（お父さん）／妈（お母さん）”に限定語を付けた形にする必要があって、夫婦間で“爸／妈”と呼び合うのは不可能である。特にこの日本語の夫婦間呼称「お父さん／お母さん」はジェンダーの観点からも語られることも多い。

従来の親族名称の中日・日中比較対照研究は、家族間・親族間での会話から実際に用いられている自称・対称表現を収集し、併せて対象となった家族・親族関係と年齢構成を図示し、どのような語彙や表現が用いられているかを、時に地域的要素を取り込んで調査する手法が多い。この傾向は日本語単体での研究にも見られるようで、小森（2013）に「人称詞には、話し手が自分自身を指す自称詞、聞き手を指す対称詞、そして話し手と聞き手の間で話題と

なる人物を指し示す他称詞がある。これまで人称詞の研究は自称詞と対称詞に集中し、他称詞が取り上げられることは多くなかった。」とある。他称詞を調査対象とした小森（2013）も、いわゆる聞き取り調査を行い、音声資料から親族名称を収集し家族関係・年齢調査と合わせて分析をするというオーソドックスな手法を踏襲している。

本稿の目的は、中国語と日本語の親族名称の中でも「他称詞（reference terms）」用法における性格の違いの一端を明らかにすることであるが、家族への聞き取り調査の手法とは異なり、小説等の言語資料を用い、どのような視点・構造で他称詞の形式が選ばれるのかについて考察と検討を試みるものである。

1 “她妈”が「妻」となるとき

まず最初に《2015中国微型小说排行榜》に収録されている、相裕亭による《电话》というタイトルの短篇小说を題材として引用する。登場人物は、この短編小説の主人公であり且つ話の語り手である男性「我（わたし）」とその妻と一人娘、この3人のみである。

家族関係を示す表現には下線を付し、特に日本語との比較考察において鍵となる「妻」を指す箇所には加えて網掛けを施している。

（〈电话〉引用始まり）

女儿很少给我打电话。

女儿有事，打电话给她妈。

家中有事要与女儿说，也就她妈与女儿联系。好像女儿的事与我这个做父亲的没啥关系。但是，有时女儿在电话中说的事，明显是针对我的，可她还是打电话给她妈。娘俩煲电话粥时，我会在一旁插话，让女儿一个人在外面要注意休息，多吃水果，或是告诉她，明后天她生活的那座城市天气有变化，让她出门时多加衣服之类。女儿在电话那端听出我的声音，就会问：“是不是俺爸？”

她妈愤愤然地回答：“不是你爸是谁，烦死了！我们打个电话，他也跟在一旁多言多语的。”

女儿在电话那端出主意，让她妈拿着电话，到旁边屋里与其通话。

这下好啦，娘俩抱着电话，少则10分钟，多则两小时，从姑家表弟相亲，谈到姨家表妹在大学里写了入党申请书；从老妈科室里谁谁的对象谈了两年多又吹了，到小街口卖菜的一个女人与老妈穿同一式样的裙子；等等。总之，随便扯个话题，娘俩都能说上一阵子，好像长途电话在她们娘俩手中不用付费似的。

有时，我正在看电视，女儿的电话来了，我怕她们说起来没完没了影响我，干脆支使其到旁边聊去。可那样的时刻，我总会听到她们娘俩在谈论我的话题，多数是女儿问她妈：“我爸呢？”“你爸在看电视！”

之后，就没有我的事了。

印象中，有一回，她们娘俩为一件什么事儿，在电话中谈恼了，前后三四天，谁也不睬谁了。

刚开始，她妈说：“这下，可好了，让我清静清静。”

可没过两天，做妈的耐不住了，问我：“你说俺这个丫头，是不是白养了，怎么说不给我们打电话，就不给我们打电话了呢？”

我思忖了半天，给她出主意，让她不要在微信圈里亮动态。

她妈说：“嘛？这与闺女来不来电话有什么关系？”

我说：“你每天在微信圈里发动态，女儿在千里之外都能摸到你，自然就不跟你联系了。”

果不其然，没过24小时，女儿电话打来了。不过，这一次是打给我的。但是，女儿开口就问：“爸，俺妈呢？”

她妈当时就坐在我身边，听到女儿声音，还假模假样地冲我直摆手，示意不要提她。

我却说：“你妈呀，她在这，喃喃喃，你跟你妈说吧！”我顺手把电话递过去，娘俩若无前嫌地又聊上了。

我又成了局外人。

总之，女儿的电话，与我无关。闲时，我也琢磨，女儿怎么就不愿与我在电话里聊聊呢？是从小管她太严，被我管怕了，还是我这个做父亲的某些地方做得不合格呢？

扪心自问，我们这一代人，相应党的号召，一生只生一个孩子，在子女的教育上，缺少一定的育儿经。从孩子咿呀学语，到她展开书本接受启蒙教育，以及青春期的悄然叛逆，每一个成长阶段，对于初为父母的我们来说，都是未知的，更何况孩子，她是一张白纸。我们在陪伴她生长的过程中，自觉不自觉地步入了几多教育误区。比如，女儿两岁半时，拿起奶瓶砸大衣镜，她要找镜子里的自己；公园里玩跷跷板时，她在空中撒手掉下来，要去旁边骑木马；上小学时，常常在放学后，躲到小街的巷子里玩跳棋，等等这些，表面上看，都是孩子的错，可仔细想想孩子又有什么错呢！我们只知道大声训斥，怎么就不懂得晓之以理，动之以情地耐心启发引导呢。

如果，让我们再生一个孩子，或许会避免一些教育误区。

眼下，女儿研究生毕业，已经是二十几岁的大姑娘啦，在离家很远的一个陌生城市工作，我们做父母的思念她，她一定也思念我们。她时常与她妈妈通电话，怎么就不想着给老爸打个电话呢？好多次，我看她与她妈通话过密，心中颇有微词，甚至会想到女儿不给我打电话，是与我这个做父亲的有隔阂。

好在，她与她妈妈电话不断，我从中感知到女儿，也就安然了。

前几天，她妈去青海旅游，我一人在家时，中午被几个朋友叫出去吃午饭。

当时，我手机放在包里。回头看到有个未接电话，恰恰是女儿打来的。

当下，我既欣喜又恐慌！

欣喜的是，女儿终于给我打电话了，尽管此时我还不知道她要与我什么，但是，当我看到手机屏幕上显示女儿的乳名，一时间我很激动；恐慌的是，女儿怎么突然想起给我打电话？她在外面是不是遇到自己不能处理的难题，或是碰到什么非要我来帮忙不行的事情了？而我，恰恰因为在外吃饭，把手机放在包里没有听到铃声。

我当时把电话反拨过去，不巧的是，对方正在通话中。等我再次去拨女儿的电话时，发现屏幕上闪出女儿的一个未接信息，打开一看，女儿语音告诉我：“爸，我没有什么事，我妈不是去青海了吗，我想看看你一个人在家是怎么生活的，嘿嘿！”

听着女儿那软绵俏皮的语音，我愣了片刻，顿感心里一阵温暖。

(引用終わり)

一読して気付かれることだが、これだけ分量のある文章において，“妻子”“老婆”“媳妇”etc.といった「妻」を示す中国語の単語は一度も使用されておらず、「妻」を指す場面

で用いられているのは“她妈”“她妈妈”“老妈”“做妈的”といった，“妈”=母親を核としたバリエーションのみである。親族名称の中には、母娘二人を指す“娘俩”や、夫婦二人をまとめて示す“初为父母的（我们）”=「初めて親となった（私たち）」という表現もあるが、「妻」を直接意味する語はやはり用いられていない。

ではこの小説を日本語に翻訳するとどのようになるだろうか。以下筆者による訳文を記す。

（『電話』訳文始まり）

娘はほとんど私に電話をかけてこない。

家で娘と話したいような事があれば、妻（?? 母親）が娘と連絡をとる。娘のことは私という父親と何の関係もないかのようだ。しかし時に娘が電話で話していることが、明らかに私についてであっても、それでも彼女は妻（母親）に電話をかけてくる。母娘二人が長電話しているとき、私はそばで口を挟んで言う。娘が一人で外出するときはちゃんと体を休めるようにとか、果物をよく食べるようにしなさいとか、他にも、明日明後日彼女が暮らしている街では天候が崩れるから、外出するときは厚着をしなさいといったようなことだ。娘は電話の向こうで私の声を聞きつけるところ尋ねてくる。「お父さんの？」

妻（*母親）はぷりぷり怒りながら答える。「お父さんじゃなかったら誰だというのよ、まったくうるさいんだから！電話してると、そばであれこれ言うてるのよ」

娘が電話の向こうで何か言ったのか、妻（*母親）は電話を持って、隣の部屋まで移動し話を続けた。

この度はそれでもよかったのだ、母娘が電話を抱え込むと、少なくとも10分間、多くて2時間、父方のおばさん家の従弟がお見合いをさせていただき、母方のおばさん家の従妹が大学で共産党の入党申請書を書いたのだ、母さんの職場にいる誰その恋人が2年以上付き合っていて別れたのだ、通りで野菜を売っている女の人が母さんと同じスカートを履いていたのだ、などなどのことだ。要するに、手当たり次第話題にしては、母娘二人は長いこと話し込み、長距離電話というものが彼女たちの手にはまるで金がかからないものであるかのようだった。

あるとき、私がちょうどテレビを見ているとき、娘からの電話がかかってきて、彼女らのとりとめのない話が私に影響するのを恐れて、部屋の向こうに行って電話で話してもらおうようにした。そんな時、彼女ら二人が私について話題にしているのを耳にし、その多くは娘が妻（母親）に尋ねているものだった。「お父さんは？」

「父さんはテレビを見ているよ！」

それ以降、私のことが口に上ることはなかった。

印象に残っている中で、あるとき、彼女ら母娘二人は何かのことで、電話で言い合いになり、それから3、4日ほど、お互い相手にしようとしなかった。

しかし数日も経たないうちに、妻（*母親）は我慢しきれなくなり、私に言ってきた。「ねえうちの娘は、無駄な育て方をしてしまったのかしら、どうして電話するなど言ったら、もう電話してきやしないの？」

私はしばらく思案し、妻（*母親）に微信¹で自分の動きを知らせないようにと、考えを授

¹ LINEに近い機能を持つ中国の通信アプリ“微信（WeChat）”のこと

けてやった。

妻（*母親）は言った。「ええ？ それとうちの娘が電話してくるかどうかと何の関係があるのよ？」

私はこう言った。「お前が毎日微信で自分の動きを書いているから、あの娘は遠くからでもお前に触れているような感じがして、それで連絡をしないんだよ」

果たして、24時間も経たないうちに、娘は電話をかけてきた。しかし、そのときは私にかけてきたのだった。だが娘は開口一番こう言った。「お父さん、お母さんは？」

妻（*母親）はその時私のそばに座っていて、娘の声を耳にし、大袈裟にしきりに手を振って、取り合うなという身振りをしてみせた。

それでも私は言ってやった。「母さんなら、ここにいるよ、おいおい、母さんと話をしなさい！」 私はそのまま電話を手渡し、母娘二人はまるで何ごともなかったかのようにまたお喋りを始めた。

私はまたもや部外者となったのだ。

要するに、娘の電話は、私とは無関係なのだ。暇なときに、私も考えてみた、娘はどうして私と電話で話をしようとししないのだろうか？小さい頃から厳しくしすぎて、私の躰のおかげで怖がるようになってしまったのか、それとも私という父親に何か至らない点があったのだろうか？

胸に手を当てよくよく考えてみると、私たち世代の人間は、共産党のスローガンに答え、一生に一人だけ子供を持ち、子供の教育において、ある一定の育児理論を欠いていた。子供が言葉を覚え始め、書籍を手にし学校教育を受けるようになり、思春期のいつのまにか訪れていた反抗期といった、一つ一つの成長の段階が、初めて親となった私たちから言わせれば、全てが未知であり、まして況や子供をや、彼女は何も書かれていないまっさらの白紙の状態なのだ。私たちは彼女が成長する過程に付き添うなかで、知らず知らずのうちに教育の上で間違ったところに足を踏み入れていた。たとえば、娘が2歳半のとき、哺乳瓶で大きな姿見を割ってしまったが、それは彼女が鏡の中の自分を探そうとしてやったことだった。公園でシーソー遊びをしていたとき、彼女は空中で手を離して落っこちてきたが、それは隣の木馬に乗りたいたってやったことだった。小学校に入ると、いつも放課後には、通りの路地に身を潜めてはダイヤモンドゲームで遊んでいたりなどなど、これらのことは、表面的に見れば、どれも子供のやった過ちであるが、しかしよくよく考えてみれば子供に何の過ちがあるというのか！ 私たちはただ大声で叱り付けることしか知らず、子供に道理を説いて理解させ、感情に訴えかけて動かし導くということをどうして理解していなかったのだろうか。

もしも、私たちがもう一人子供を持つことができていたなら、あるいは教育における間違ったところを幾分回避できていたかもしれない。

現在、娘は大学院を卒業し、もう二十代の大人の女性になり、家から遠く離れた馴染みのない街で働いており、私たち両親は娘のことを思い、彼女もまた私たちのことを思ってくれていることだろう。彼女はしょっちゅう妻（母親）と電話でやりとりをしているが、どうして父さんに電話をしようと思わないんだろう？ 私は何度も、娘と妻（その母親）が電話でしきりと話をしているところを目にして、内心大層不満で、更には娘が私に電話をしたがらないのは、私という父親と心理的な隔りがあるせいではないかと考えたりもした。

幸い、彼女と「妻（その母親）」との電話は途切れることなく、私はそこから娘を感じ取ることができ、それでよしと感じていた。

数日前、妻（*母親）が青海省へ旅行に出かけ、私に家に一人でいるとき、昼に友人数人と食事に出かけることになった。そのとき、私は携帯電話を鞆の中に入れていた。帰ってきて見てみると、電話の着信があり、それは娘がかけてきたものだった。

そのとき、私は喜びそして慌てふためいてしまったのだ！

喜んだのは、娘がついに私に電話をかけてきたことで、そのときは彼女が私に何を話そうというのか分からなかったが、とにかく、画面に娘の幼名が出てきたのを目にしたとき、私はとても嬉しかった。慌てふためいた気持ちになったのは、娘はどうして急に私に電話をかけてきたのだろうか？外で自分では処理しきれない大変なことに出くわしたか、それとも私が手を貸してやらなければならないようなことが起こったのだろうか？ということだ。私はといえば、たまたま外で食事していたものだから、携帯を鞆に入れていて呼び出し音も聞こえなかったのだ。

私が電話を向こうにかけてみると、間の悪いことに、向こうも話し中だった。もう一度娘に電話をかけてみようとしたとき、画面に娘からの着信が表示され、開いてみると、娘の声が私に語りかけてきた。「お父さん、何でもないんだけど、お母さんが青海に出かけちゃったでしょう、一人で家でどう生活しているかなと思って、えへへ！」

娘の柔らかくいたずらっぽい声を耳にしていると、私は少しほんやりとした気持ちになったが、程なく胸の中がふと温くなるのを感じた。

（訳文終わり）

実際日本語に翻訳してみると、「四角囲み」で記している箇所のように、「她妈」を「(娘の)母親」²と訳しても問題ないものもあるが、「網掛け」で記している箇所のように、どうしても「妻」でなければ日本語として不適格なものが存在する。「娘にとっての母親」は当然「私にとっての妻」と同一人物なわけだが、ではここで用いられている「彼女の母親」＝「她妈」を、「私の妻」を意味する語に置き換えるとどうなるだろうか？「妻」に相当する中国語の単語はいくつかあるが、この小説は全体に柔らかい口語体を用いて書かれており、「妻」を意味する代表語彙である“妻子”は書面語的性格を幾分帯びて改まったニュアンスがかなり強く、その語気性格から不釣合いな感があると中国語インフォーマントから意見を得たので、柔らかな口語としてよく用いられる“老婆”を選択して置き換えてみる。

- 1) 女儿有事，打电话给她妈。
- 2) ?女儿有事，打电话给我老婆。
- 3) 她妈愤愤然地回答：不是你爸是谁，烦死了！我们打个电话，他也跟在一旁多言多语的。
- 4) ?我老婆愤愤然地回答：不是你爸是谁，烦死了！我们打个电话，他也跟在一旁多言多语的。
- 5) 刚开始，她妈说：“这下，可好了，让我清静清静。”

² 無標の「母親」でも文成立度は相当高いと筆者の日本語感覚では思われるが、主人公・私にとっての母親＝娘にとっての祖母と混同されるのを回避するためには、「彼女の母／その母親」といったような指示表現を添えるのがより確実な文成立につながるであろう。

- 6) ?刚开始, 我老婆说:“这下, 可好了, 让我清静清静。”
 7) 她妈说:“嘛? 这与闺女来不来电话有什么关系?”
 8) ?我老婆说:“嘛? 这与闺女来不来电话有什么关系?”
 9) 她妈当时就坐在我身边, 听到女儿声音, 还假模假样地冲我直摆手, 示意不要提她。
 10) ?我老婆当时就坐在我身边, 听到女儿声音, 还假模假样地冲我直摆手, 示意不要提她。
 11) 前几天, 她妈去青海旅游, 我一人在家时, 中午被几个朋友叫出去吃午饭。
 12) ?前几天, 我老婆去青海旅游, 我一人在家时, 中午被几个朋友叫出去吃午饭。

複数のインフォーマントに尋ねたところ, いずれも文法的には問題なく成立するのだが, この小説の内容からするとやはりオリジナルの“她妈”の方がより相応しいという回答だった。インフォーマントの一人からは, “女儿”=娘とその母親が頻繁に電話でやりとりをするほど仲が良い, 主人公の男性から見た「娘と母親が一つのグループに属しているような親密さ・一体感」をこの小説は題材としているので, それを表現するためには“她妈”が最も効果的である, これを“我老婆”としてしまうと母娘二人の繋がりがあまり感じられず一体感を損ねてしまうという感想を得た。小説の著者はこの効果も十分に計算に入れた上で, これらの親族名称を選択して執筆していると考えられる。

“我老婆”への置き換えについて, 文成立はするが, 小説全体の流れから見て更に違和感が強くなるというインフォーマントの感想があったのが, 下に記す14)である。

- 13) 可没过两天, 做妈的耐不住了, 问我:“你说俺这个丫头, 是不是白养了, 怎么说不给我们打电话, 就不给我们打电话了呢?”
 14) ?可没过两天, 我老婆耐不住了, 问我:“你说俺这个丫头, 是不是白养了, 怎么说不给我们打电话, 就不给我们打电话了呢?”

娘からの電話が途絶えたことに母親=主人公の妻が我慢しきれなくなる場面であるが, インフォーマントからは「母親として, 子供のことがどうしても気になって仕方がない」という意味合い・演出効果が強く, “我老婆”ではそれが伝わりにくくなってしまうとのこと。やはり“女儿”との強い一体感を前提としていること, それも1)~12)では動作動詞を述語としているのに対し, 13)~14)では感情に関わる動詞が用いられていることから, この置き換えにより違和感が更に強くなると推察される。一方, 日本語でこの場面を翻訳しようとするれば, やはり「妻」を使うことになるだろう。そして「妻」を使うからといって, 連絡が途絶えた娘を案じる母心が減じているという感覚は特段ない。

つまり, 日本語の翻訳においては“她妈”を「妻」と訳す場合と, 「(娘の) 母親」と訳す場合の2パターンが存在し, 中国語短編小説《电话》原文では1パターンのみで処理されているということになる。そしてその日本語において2パターンは時に並存し, 時に一方が成立しないのは前掲の日本語訳文から見て取れる。

以下に「妻」「母親」並存パターンの例を書き抜いて挙げてみる。

- 15) しかし時に娘が電話で話していることが, 明らかに私についてであっても, それでも彼

女は[妻]に電話をかけてくる。

- 16) しかし時に娘が電話で話していることが、明らかに私についてであっても、それでも彼女[母親]に電話をかけてくる。
- 17) 彼女はしょっちゅう[妻]と電話でやりとりをしているが、どうして父さんに電話をしようと思わないだろうか？
- 18) 彼女はしょっちゅう[母親]と電話でやりとりをしているが、どうして父さんに電話をしようと思わないだろうか？
- 19) 私は何度も、娘と[妻]が電話でしきりと話をしているところを目にして、内心大層不満で、更には娘が私に電話をしたがらないのは、私という父親と心理的な隔たりがあるせいではないかと考えたりもした。
- 20) 私は何度も、娘と[その母親]が電話でしきりと話をしているところを目にして、内心大層不満で、更には娘が私に電話をしたがらないのは、私という父親と心理的な隔たりがあるせいではないかと考えたりもした。
- 21) 幸い、彼女と[妻]との電話は途切れることなく、私はそこから娘を感じ取ることができ、それで良しと感じていた。
- 22) 幸い、彼女と[その母親]との電話は途切れることなく、私はそこから娘を感じ取ることができ、それで良しと感じていた

これらに共通しているのは「娘（彼女）が～した」「娘（彼女）と～した」といったように、全て「娘」を軸にした叙述をしていることである。

一方「妻」パターンのみが存在し、「母親」パターンが成立しないものでは、その叙述の対象となっている現場に「娘」は直接関わっていない。いずれも「妻は～した」か、もしくは「私は妻に～した」という点が共通している。

- 23) しかし数日も経たないうちに、妻は我慢しきれなくなり、私に言ってきた。
- 24) * しかし数日も経たないうちに、母親³は我慢しきれなくなり、私に言ってきた。
- 25) 私はしばらく思案し、妻に微信で自分の動きを知らせないようにと、考えを授けてやった。
- 26) * 私はしばらく思案し、母親に微信で自分の動きを知らせないようにと、考えを授けてやった。
- 27) 妻は言った。「ええ？ それとうちの娘が電話してくるかどうかと何の関係があるのよ？」
- 28) * 母親は言った。「ええ？ それとうちの娘が電話してくるかどうかと何の関係があるのよ？」
- 29) 妻はその時私のそばに座っていて、娘の声を耳にし、大袈裟にしきりに手を振って、取り合うなという身振りをしてみせた。
- 30) * 母親はその時私のそばに座っていて、娘の声を耳にし、大袈裟にしきりに手を振って、

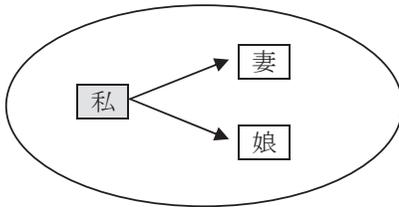
³ 「娘の母親は我慢しきれなくなり、～」なら、文単体に範囲を絞って考えるならば一応文成立はするだろうが、いかにも外国語からの翻訳臭が強い。そして大量の文の連なりによって展開される小説内で繰り返用いることは難しいだろう。

取り合うなという身振りをしてみせた。

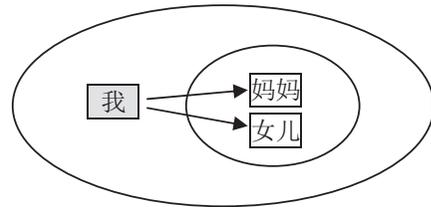
- 31) 数日前, 妻が青海省へ旅行に出かけ, 私が家に一人にいるとき, 昼に友人数人と食事に出かけることになった。
- 32) * 数日前, 母親が青海省へ旅行に出かけ, 私が家に一人にいるとき, 昼に友人数人と食事に出かけることになった。

これらから, 私・妻・娘の関係性を試みに図示してみる。楕円型の囲みは家族グループの枠組みで, その中に家族の構成メンバーがおり, 網掛けしている「私」や「娘」や「我」は, 叙述の基準となる人物, 「私は妻に～した」であれば「私」, 「娘は～した」であれば「娘」を意味する。

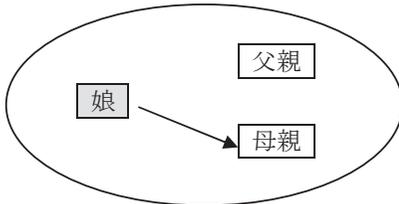
〔日本語での関係図式 A-1〕



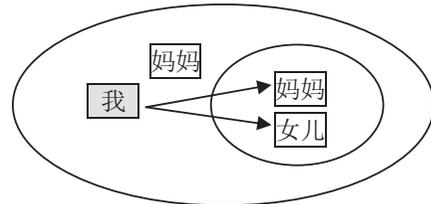
〔中国語での関係図式 A〕



〔日本語での関係図式 A-2〕



〔中国語での関係図式 A'〕



例文15)~22)のように「妻」 \leftrightarrow 「母親」の置き換えが可能な例文は, 〔日本語での関係図式 A-1〕と〔日本語での関係図式 A-2〕の両方が適用できるということになる。一方例文23)~32)では「妻」形式しか成立しない。これは当然であって, 娘が叙述の基準でない以上, 〔日本語での関係図式 A-2〕は適用不可であり, 「母親」という表現は出現しようがないのである。

それでは中国語の短編小説《电话》で全体を通じて“她妈”とそのバリエーションだけが用いられていたのをどう解釈するかであるが, 「母と娘との一体感」を利用し〔中国語での関係図式 A〕で見えての通り, 外側楕円形の家族グループ枠組みの内側に, 更に小さなグループの枠組みを設定した。この中に“妈妈”“女儿”2名が入るのである。注意したいのはこの家族名称はそれを囲む枠組み内で決定されるのであって, 枠を跨いだ形, 例えば小さな枠の外にいる“我”から見れば“妈妈”は自分の妻であるのだが, その家族名称は採用されず, 枠の内側にいる“女儿”との関係により“妈妈”と決定される。

だが“妈妈”その形のままで, “我”と同じ楕円の家族グループ枠内にある“妈妈”, つ

まり自分自身にとっての母親（娘から見れば父方祖母に当たる）と混同してしまうため，“女儿的妈妈”→“她妈”の形にすることでその混同を防ぐのではないか。〔中国語での関係図式A〕を見られたい。

2 “妻子／老婆”が「妻」であるとき

第1節では“她妈”を「妻」と日本語で訳さなければならない、興味深い例文について見てきた。だがもちろん、「妻」を直接示す中国語の語彙“妻子／老婆”もまた普通に用いられている。ではそれらは第1節の例と何が異なるのだろうか？

33) 那年年关将近，我提前买好年三十早上6点的汽车票。想起第二天即将见到分别近一年的儿子，我和妻兴奋得一夜无眠，黎明时分，才昏昏沉沉睡去……当听到妻的一声惊呼时，时针已指向7点了。……

（中略）

妻子把提包一放，伸手抱过儿子，一声声地喊：骏儿骏儿，妈妈回来了……娘说：别喊了，睡实了。早上就拉着爸爸手，到村口去接了你们。外面刮风响，他也出门瞄瞄，一直等到十一点才睡着……

妻子把头埋在儿子胸前，紧紧地抱着。（朱道能《回家的路》より引用）

（『家へ帰る道』訳文始まり）

その年の大晦日が迫り，私は早めに12月30日朝6時のバスのチケットを購入した。その翌日には1年近く別々に暮らしている息子に会えることを思い，私と妻は興奮で一晩中眠れず，夜明け方になり，ようやくまどろみ始めた……妻が驚き私を起こす声を耳にしたときには，時計の針はもう7時を指していた。

（中略）

妻（*母親）は鞆を置くと，腕を伸ばし息子を抱きしめ，大声で呼びかけた。「駿ちゃん駿ちゃん，お母さん帰ってきたよ……」母が言った。「大声を出さないで，ぐっすり眠っているのだから。朝祖父ちゃんと手をつないで，村の入口までお前たちを迎えに行っただ。外は風がびゅうびゅう吹いていて，それでもあの子は外に出て見張りながら待っていて，夜11時になってようやく寝たんだよ……」

妻（*母親）は息子の胸に顔を埋め，しっかりと強く抱きしめていた。

（訳文終わり）

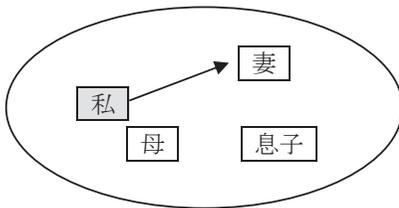
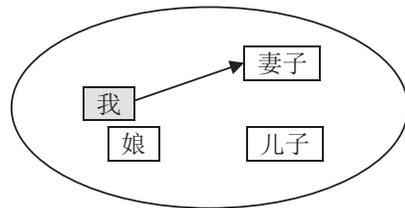
この小説の抜粋箇所では，登場人物として主人公の“我（わたし）”とその“妻子（妻）”と“儿子（息子）”，あと“娘（わたしの母親，妻にとっては姑）”がいる。男性とその妻・子供が揃っているところは《电话》と同じ構図であるが，後の段落の冒頭に出てくる“妻子（妻）”を例えば“她妈妈（息子の母親）”に置き換えようとしても成立が難しく，中国語と日本語とでシンプルに一致した振る舞いを見せる。

- 34) 妻子把提包一放，伸手抱过儿子，一声声地喊：骏儿骏儿，妈妈回来了……
- 35) * 他妈把提包一放，伸手抱过儿子，一声声地喊：骏儿骏儿，妈妈回来了……
- 36) 妻子把头埋在儿子胸前，紧紧地抱着。这时，我才想起玩具手枪来—呵呵，就算送给虎子的新年礼物吧。
- 37) * 他妈把头埋在儿子胸前，紧紧地抱着。这时，我才想起玩具手枪来—呵呵，就算送给虎子的新年礼物吧。

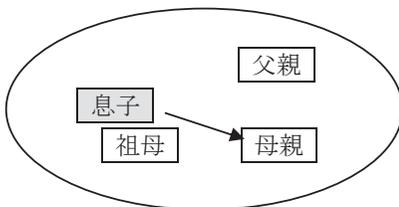
小説原文から抜き出した例文34)36)は、深夜になってようやく夫の故郷にある実家に帰り着き、一人息子に再会できた喜びのあまり眠っている息子をかき抱いて大声で呼びかけ、それを姑に窘められている場面である。子に向ける母親の愛情から考えれば、《电话》に登場する母親と比べてその愛情量が少ないはずはないだろう。だがそれでありながら“他妈（母親）”への置き換えができない理由を考えると、息子は登場こそしているが、ただ眠り続けているだけでありそれ以外の動作は起こしておらず、直接息子が何をしたか叙述の対象になっていない。なおこの短編小説《回家的路》で息子が登場するのはこの場面のみであり、ただ眠っている最中に母親に呼びかけられているだけで、息子自身が目覚めて何らかの動作行為をしないといた展開はない。

〔日本語での関係図式 B 2〕は息子基準の叙述が必要とされるがそれが当該小説にはないこと、〔中国語での関係図式 B 2〕は息子を中心として述べ立てることが必要だがただ眠っているだけではその述べ立てに至る力を獲得することができないようでこの構図をとることができず、〔日本語での関係図式 B 1〕〔中国語での関係図式 B 1〕のように“我（わたし）”を基準として一致した振る舞いを見せるのではないだろうか。

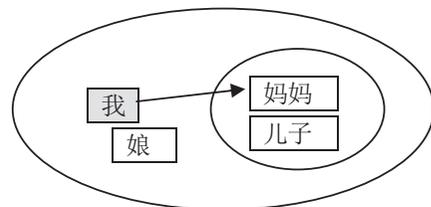
〔日本語での関係図式 B 1〕

〔中国語での関係図式 B 1〕⁴

〔日本語での関係図式 B 2〕



〔中国語での関係図式 B 2〕



⁴ この楕円の枠内にある“娘”は日本語の「むすめ」ではなく、中国語で「母親」の意味である。主人公の母親、妻にとっての姑、息子にとっての父方祖母である人物を指す。

更に別の例を見てみよう。例36)は天涯论坛掲示板からの悩み相談であるが、これもまた、語りべである“我(僕)”とその妻と娘が登場している内容である。

36) 遇到这样的老婆，我一生完了，女儿也完了。。

老婆脾气非一般的坏，平时骂我也就算了，没精力给她计较。

可常常打骂女儿，给她讲理也没用。

就刚才，一家人吃过晚饭，她要看湖南卫视的-贤妻。

我带孩子上街去玩到大概她三集看完，回家都高高兴的，她带孩子先洗漱，我等她们搞好了，我再洗。

这时候孩子从床上自己下来，穿着老婆的拖鞋来找我，我怕她摔着，让她去找她妈，老婆在厨房。

孩子天真的穿着大拖鞋响着过去找她。。结果老婆就突然的把灯一关，就说:bobo⁵来了。。(平常孩子最怕bobo了)。女儿吓得大哭，差点摔倒跑过来，老婆还在后面骂她：以后再穿妈妈的拖鞋还要吓她，吓坏了背时⁶！

我说，孩子晚上不能吓着了，对生长不好。再说小孩子都喜欢穿大人的鞋子，都有天真的一面，谁不是这样长大的呢。

结果她连我一起骂，我只能无语啊！无语！

我可爱的女儿啊，我对不起你，给你找了一个这样坏脾气的妈，现在看来你的童年完了。完了。。。 (天涯论坛·情感天地より)

(天涯论坛·情感天地訳文始まり)

こんな妻に出会ってしまって、僕の一生はもうおしまい、娘もおしまいだ。。

妻は性格が尋常でないぐらいに悪く、普段から僕を怒鳴りつけますがもうそれはいいです、彼女とやりあう気力もありません。

でも娘をしょっちゅう殴ったり怒鳴ったりで、彼女に言っても聞き入れようとしません。

ついさっき、家族で夕食に出かけ、彼女は湖南衛星テレビのドラマ《賢妻》を見たいといい(補足：一人帰宅し)、僕は子供を連れてほしい彼女がドラマの第3話まで見たぐらいまで街に遊びに出て、それから楽しく家に帰り、彼女と子供が先に顔を洗い歯を磨き、彼女たちが済んだ後、僕が歯磨きなどすることにしました

その時、子供が自分でベッドから降りて、妻のスリッパを履いて僕のところにやってきたので、子供が転んでしまうといけないと思い、母親のところに行かせました、妻は台所にいたのです。

子供は無邪気に大きなスリッパをパタパタ鳴らしながら妻のところに行きました。。すると妻は突然灯りを消して言ったのです「boboが来るよ。。」(普段から子供はboboをととても怖がっています) 娘は驚き大泣きして、転びそうになりながら(補足：僕のところに)駆け寄ってきて、妻はその後ろで子供を怒鳴りつけていたのです。「今度またお母さんのス

⁵ “怪兽 bobo” お化けのキャラクターのこと。

⁶ “背时”は四川方言で、“活该”=「自分がしでかした結果は自分自身が引き受けるべきだ、自業自得だ」に相当する意味を持つ。

リッパを履いたりしたらうんと怖がらせてやるよ、自業自得なんだからね！」

僕は、子供を夜遅くに怖がらせてはだめだ、成長に良くないと言ってやりました。それに子供は大人の靴を履くのが好きなもので、皆無邪気な一面があるんだ、誰だってそうやって育ってきたんじゃないのか？とも言いました。

すると彼女は僕のことまでをも怒鳴りだし、僕はただ黙っているしかありませんでした！何も言えなかった！

僕の可愛い娘よ、ごめんよ、こんなひどい性格の女をお母さんに選んでしまって、お前の子供時代はもうおしまいだよな。。。。

(訳文終わり)

例文36)の中では、悩み相談質問者の「妻」を指す語彙のほとんどは“老婆”であるが、1カ所だけ“她妈”が用いられている⁷。

37) 这时候孩子从床上自己下来，穿着老婆的拖鞋来找我，我怕她摔着，让她去找她妈，老婆在厨房。

38) 这时候孩子从床上自己下来，穿着？她妈的拖鞋来找我，我怕她摔着，让她去找她妈，??她妈在厨房。

39) その時、子供が自分でベッドから降りて、[妻]のスリッパを履いて僕のところにやってきたので、子供が転んでしまうといけないと思い、[母親]のところに行かせました、[妻]は台所にいたのです。

40) その時、子供が自分でベッドから降りて、[母親]のスリッパを履いて僕のところにやってきたので、子供が転んでしまうといけないと思い、[母親]のところに行かせました、??[母親]は台所にいたのです。

例37)の“老婆”を“她妈”に置き換えてみた例38)であるが、非文になるほどではないがインフォーマントの感覚ではやはり引かかるようである。特に後ろにある2つ目の“她妈”が、原文で既に“她妈”が使われている直前の節末尾と隣り合ってしまう、重複して使いにくくなってしまう。また37)末尾の“老婆”は先にある“穿着老婆的拖鞋”と連動している感覚があるようで、前者だけ置き換えるのも違和感があるとのことである。何にせよ中盤の“我怕她摔着，让她去找她妈”は、娘が既に人称代詞“她”となり扱われていることから、この箇所は娘基準の叙述で、母親と娘2名のグルーピングがなされた構図で述べ立てられているのだろう(第1節の〔中国語での関係図式A〕参照)。それ以外については、夫婦の問題として夫が自分自身を基準として述べ立てているためか、“老婆”が専らである。

更に、同じような家族関係として“我(僕)”と妻そして息子が登場するものに、やや露骨な内容だが男性ならではの悩み相談質問文として例41)がある。

41) 儿子8岁天天一直要我老婆陪着睡觉，没有夫妻生活，郁闷

⁷ 中盤に“以后再穿她妈的拖鞋还要吓她”というこの妻/母親による台詞がある。“ ” 引用符号がなく、また“吓她”とあることから間接会話表記であるが、これは考察対象から外すとす。

好像儿子生下来，我和老婆就分开睡了。前几年没什么，我一个人睡书房还适应。现在儿子大了，我多次提醒老婆小孩这样有念母情结⁸，将来大了要么不娶老婆或娶个跟妈妈一样岁数的女人。还有我也是正常男人，算下来一个月就1.5次性生活，感觉很不爽。天涯的朋友评评，怎么跟老婆说。

(天涯论坛・亲子中心より引用)

(天涯论坛・亲子中心訳文始まり)

息子は8歳で毎日妻と一緒にベッドで寝たがり，夫婦生活がなくて，憂鬱です

息子が生まれてからというもの，僕と妻は別々のベッドで寝るようになりました。ここ数年はどうと言うことはなかったのです，一人書斎で寝るのにも慣れました。今は息子も大きくなり，僕は何度も妻と子供にこんなにマザコンでは，将来大人になってもお嫁さんを貰えないか，そうでなければママと同じぐらいの年齢の女性をお嫁さんにすることになるぞと言いついて聞かせています。それに僕も正常な男性ですから，1カ月に1.5回の夫婦生活では，すつきりしません。天涯掲示板の皆さんアドバイスをお願いします，どのように妻に話をすればよいのでしょうか。

(訳文終わり)

この質問文に用いられている“老婆”には，“他妈”への置き換えがそのままできるものもある。但し日本語では45)のように「母親」を用いたパターンでは成立は困難である。

42) 好像儿子生下来，我和老婆就分开睡了。

43) 好像儿子生下来，我和他妈就分开睡了。

44) 息子が生まれてからというもの，僕と妻は別々のベッドで寝るようになりました。

45) * 息子が生まれてからというもの，僕と(息子の) 母親は別々のベッドで寝るようになりました。

この悩み相談冒頭の質問タイトルであるが，文中の“我老婆”もまた“他妈”に置き換え可能である。但しその際には後節の主語を改めて示すが必要となる。

46) 儿子8岁天天一直要我老婆陪着睡觉，没有夫妻生活，郁闷

47) * 儿子8岁天天一直要他妈陪着睡觉，φ没有夫妻生活，郁闷

48) 儿子8岁天天一直要他妈陪着睡觉，我和老婆没有夫妻生活，郁闷

49) 息子は8歳で毎日妻と一緒にベッドで寝たがり，夫婦生活がなくて，憂鬱です

50) 息子は8歳で毎日母親と一緒にベッドで寝たがり，夫婦生活がなくて，憂鬱です

51) 息子は8歳で毎日母親と一緒にベッドで寝たがり，僕と妻の間に夫婦生活がなくて，憂鬱です

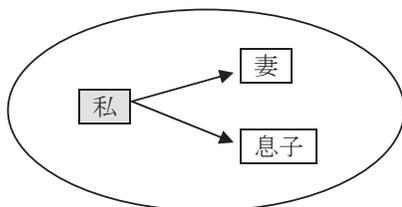
⁸ “恋母情结” “恋母情节” “念母情节” といった表記もある。意味は同じく「マザーコンプレックス」である。

後節の主語を入れ直さない例47)の場合、8歳の“儿子”について夫婦生活の有無を問題にしている内容となってしまう不適格となるということである。一方日本語訳50)では特に文成立に影響を及ぼすとまでは感じられない。

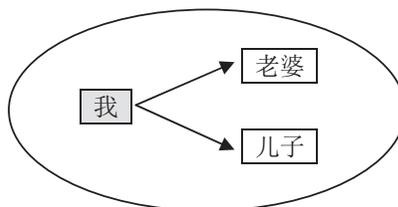
なおこの質問の末尾で、天涯论坛掲示板利用者たちに呼びかけている箇所では用いられている“老婆”は“他妈”への置き換えはできない。それは日本語も同様である。

- 52) 怎么跟老婆说。
 53) * 怎么跟他妈说。
 54) どのように妻に話をすればよいのでしょうか。
 55) * どのように(息子の)母親に話をすればよいのでしょうか。

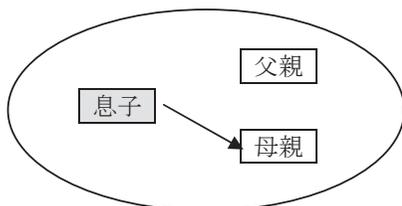
〔日本語での関係図式C-1〕



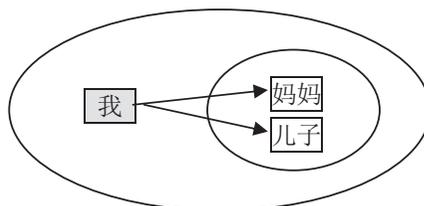
〔中国語での関係図式C-1〕



〔日本語での関係図式C-2〕



〔中国語での関係図式C-2〕



これについても関係図式を利用して考えると、中国語の例文46)47)48)では、46)は〔中国語での関係図式C-1〕の構図で叙述されており、冒頭に用いられている主語が“儿子”であるが、後節の主語を補う必要が無いことが分かる。一方47)48)では〔中国語での関係図式C-2〕の楕円形で示した家族グループの枠組みを超えた形で文節をつなごうとすると、切り替えのために48)のように改めての主語挿入が必要とされるのではないかと考えられる。

一方日本語では〔日本語での関係図式C-1〕「私」を基準とするか、〔日本語での関係図式C-2〕「息子」を基準とするかで、「妻」「母親」表記の併存が可能な場合もあるが、質問末尾の呼びかけ54)では息子は関わっていないため基準と成り得ず、〔日本語での関係図式C-2〕構図は使用できないのではないかと考えられる。そしてまた中国語原文の質問末尾の呼びかけ52)も、夫婦生活の問題は自分と妻とで話し合うべき問題として、“妈妈”“儿子”だけのグループを内包する〔中国語での関係図式C-2〕構図から離脱して日本語と一致する形になるのでは、このように解釈される。

4. 家族・親族とはどこまでを指すのか

ここまではいずれも家族の成員である者同士について述べ立てをしている様々な例を見てきた。だが「家族の成員」でなくても家族・親族関係が言及される例もある。次の例を見られたい。

- 56) 我妈妈是我爸的第二任妻子 之前那个妻子和我爸有一个女儿 不过她跟她妈 我爸和我爸这边的人已经二十多年和她没有来往了 最近这个已经 20 多岁的和我同父异母的人说要认亲戚就是说认回我的爷爷奶奶 我极度无语⁹ 但最令我无语的是爷爷奶奶承认了并且很开心 (百度知道より)

(百度知道訳文始まり)

私の母は父の二番目の奥さんで、その前の奥さんは父との間に娘が一人いますが、その娘は(補足:離婚時に)母親の方に行きました。父と父側の家族はもう20年以上その人と行き来がありません。最近になってその20歳を過ぎている、私とは同父異母であるその人が私の両親と親族として付き合いをしたい、私の祖父母と関係を取り戻したいと言っています。私はすごく落ち込んでいます。いちばん落ち込んだ気持ちにさせられるのは祖父母がそれを受け入れてまた喜んでいることです。

(訳文終わり)

この例文中の“她妈”は、「前の奥さん、前妻」を意味する言葉に置き換えた例56)は文成立が難しい。この置き換えをしてしまうと、後節の主語である“她” = 前妻と父との間に生まれた娘とのつながりが分からなくなってしまうというのが中国語ネイティブインフォーマントの感想である。一方日本語では60)のように成立が可能であり、寧ろ59)よりもすっきりとして分かりやすい感覚が筆者にはある。

- 57) 之前那个妻子和我爸有一个女儿 不过她跟她妈
 58) ?? 之前那个妻子和我爸有一个女儿 不过她跟之前的妻子
 59) 前の奥さんと父との間には娘が一人いて、その娘は(離婚時に)母親の方へ行きました。
 60) 前の奥さんと父との間には娘が一人いて、その娘は(離婚時に)前妻さん/前の奥さん方へ行きました。

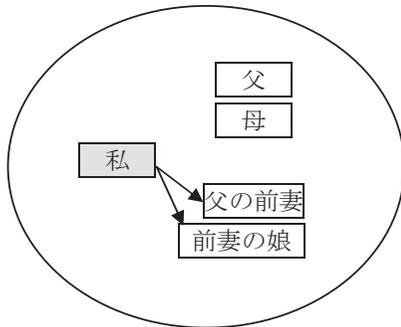
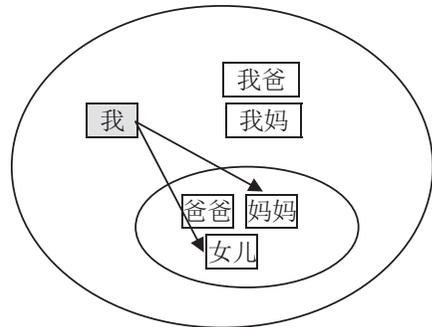
この「父の前妻」と「前妻の娘」は家族グループの枠組みにおいてはどう解釈したらよい

⁹ 本来は「言葉が出ない」の意であるが、近年は「言葉が出ないほど憂鬱で落ち込んだ気持ち、どうにもできない無力感」といった感情表現を形容するのに用いられるインターネット上の流行語であり、百度百科(中国において wikipedia に相当するもの)で【无语(网络语言)】ページが作成されるぐらいに定着している。なお例36)にも“我只能无语啊!无语!”が用いられているが、“只能”があるため、こちらでは動作動詞の用法と解釈し「黙っていることしかできなかった」と訳した。

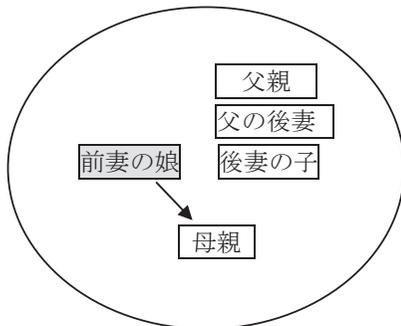
だろうか。日本語ではひとまず「私」にとっての「父」「母」に準じる形で、それらをフラットに並べてみた、それが〔日本語での関係図式D-1〕であり、例60)に反映される。またそれを「前妻の娘」基準に組み替えたのが〔日本語での関係図式D-2〕で、例59)にあたる。

一方中国語では「前妻」と「その娘」が、“我（私）”とは別のグループとして扱われているのは例58)から明らかであるため、〔中国語での関係図式D-1〕となる。

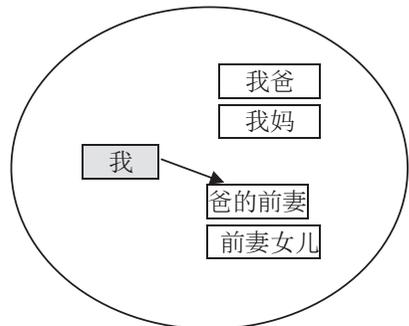
〔日本語での関係図式D-1〕

〔中国語での関係図式D-1〕¹⁰

〔日本語での関係図式D-2〕



〔中国語での関係図式D-2〕



例57)にて“之前那个妻子”が使われていることから、〔中国語での関係図式D-2〕のようにフラットに親族名称を並べたような構図もあるのだろうと察せられる。但し、例58)の末尾“她妈”は“之前那个妻子／之前的妻子”への置き換えが不可能であり、その文節の主語は“她”であることから、既に〔中国語での関係図式D-1〕に切り替わっていると考えられる。親族呼称のまま文章中に登場するか、それとも人称代詞に切り替わるかは、照応の問題として考察する必要があるが、家族グループの枠組みもそれに影響している可能性があるだろう。

¹⁰ “我爸”と“爸爸”があるがこれは同一人物を指す。“我（わたし）”と同じ家族グループである“我爸”と、前妻の娘と同じグループに血縁上組み込まれるはずの“爸爸”である。

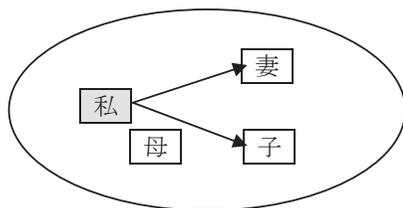
5. まとめ

父親・母親・子供という家族関係を中心に、親族名称を小説や相談質問の文章などにおいて他称に用いている様々な例を見てきたが、中国語と日本語では、一致している振る舞いを見せることもあるその一方で、かなり異なった振る舞いもしていることが分かる。

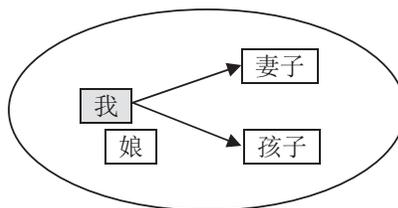
時に母と子の一体感を強く訴えかけたり、また逆に夫と妻との関係性を主張するときには母子の枠組みから遠ざかったりと、中国語においては言葉の表現・レトリックの上でも有効に活用されている。またそれは主語の省略であったり、主語の再挿入の必要性、さらに人称代詞に切り替えるか否かという構文面にも強く影響しているだろうと予想される。

以下に「父親・母親・子供、そして父親の母親」を、家族グループの枠組みを用いた記した関係図式を記す。一つの楕円形のグループ枠に親族名称が並ぶタイプをフラット式、その中に更に小さなグループ枠が内包されるタイプをレイヤー式とした。

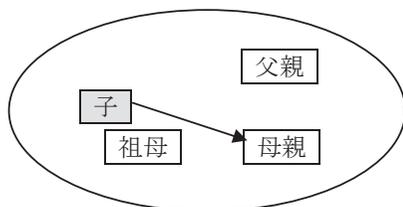
〔日本語での関係図式 フラット式・視点1〕



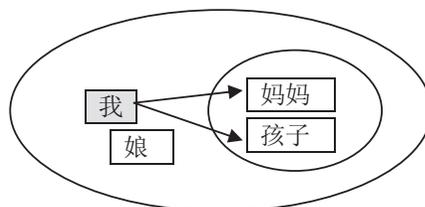
〔中国語での関係図式 フラット式〕



〔日本語での関係図式 フラット式・視点2〕



〔中国語での関係図式 レイヤー式〕



このグループ枠組みがどこまで正しいかは、今後検証を重ねるべき課題である。また人間関係は別に家族・親族だけでなく例えば学校だったり会社だったり友人同士だったり様々な形態があるわけで、家族のグループ枠組みが構文面に影響を与える力があるとすれば、それらにも似たような枠組みが存在すると予想され、それもまた今後の検討課題となるであろう。

【引用資料】

- 相裕亭「电话」,《2015中国微型小说排行榜》微型小说选刊杂志社选编,百花洲文艺出版社2016年1月 pp.166-168
 朱道能「回家的路」,《2015中国微型小说排行榜》微型小说选刊杂志社选编,百花洲文艺出版社2016年1月 pp.275-277

【参考文献】

- 陳露（2001）「現代日中両言語における親族呼称の対照研究」、『千葉大学社会文化科学研究』第5号，pp.21-31
- 劉柏林（2001）「中日の親族呼称について」、『愛知大学言語と文化』第5号 pp.61-78
- 趙秋茹（2006）「中日の家族呼称について」、『拓殖大学大学院言語教育研究』第6号 pp.1-13
- 韓秀蘭（2006）「日中韓の人称詞に関する対照研究—親族名称を中心に—」、『三重大学国際交流センター紀要』第1号 pp.41-54
- 張守祥・于湘泳（2010）「中日親族内部における親族呼称に関する対照研究—中国東北地方・日本関東地方の両親族の事例で—」、『地域言語』第21号 pp.52-62
- 于学英（2012）「中日两语言称呼词的比较」，《长春工程学院学报（社会科学版）》第13卷第3期
- 小森由里（2013）「親族間で用いられる他称詞の運用—話題の人物を捉える視点と表現形式—」『社会言語科学特集：ウエルフェア・リングイステイクスにつながる実践的言語・コミュニケーション研究』第16巻第1号 pp.109-126

（2016年10月31日受理，12月13日掲載承認）